

トピックス 1 令和2年7月豪雨への対応

(関東森林管理局・中部森林管理局・九州森林管理局)

① 芦北地区特定民有林直轄治山施設災害復旧等事業

令和2年7月に発生した記録的な大雨（令和2年7月豪雨）により、全国で多数の山地災害等が発生し、特に熊本県球磨川流域では河川の氾濫等甚大な災害が発生しました。

九州森林管理局では、令和2年7月豪雨により山地災害が集中した熊本県葦北郡芦北町等1市2町において、熊本県知事からの要請を受け、民有林の治山施設や林地復旧を国の直轄代行により施工する特定民有林直轄治山施設災害復旧等事業を10月に開始しました。令和2年度には、早期の応急復旧が必要な箇所の実施し、令和5年度末の事業完了を目指して、熊本県や関係市町と連携して計画的な復旧事業を実施してまいります。



- ・熊本県葦北郡(あしきたぐん)芦北町(あしきたまち)
- ・(左) 林地崩壊の状況 (右) 応急対策完成の様子

② 流木捕捉式治山ダムによる流木等の捕捉

天竜森林管理署では、令和2年7月豪雨で発生した災害において、平成24年に設置した流木捕捉式治山ダム（鋼製スリットダム）が流木等を捕捉し、的確に機能したことを確認しました。約250 m³の流木と約2,000 m³の土砂の捕捉により、流下を抑制し、下流の取水ダムや橋梁に対する被害を軽減しました。

同署では、今後の豪雨等に備えて、流木捕捉式治山ダムに求められる捕捉機能を回復させるため、捕捉された流木等を令和2年度中に除去しました。今後も、継続的な治山施設の点検等により、流域の保全に取り組んでまいります。

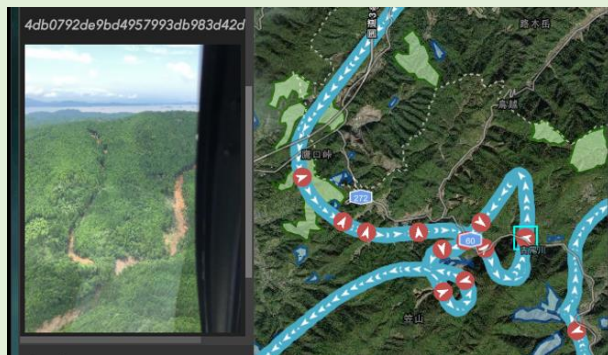
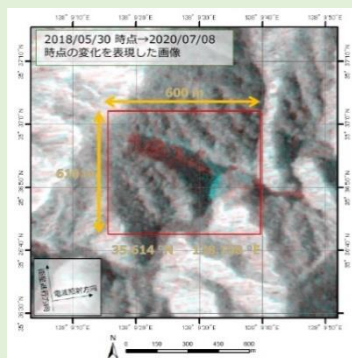


- ・静岡県浜松市(はまつし)地頭方(じとうがた)国有林
- ・治山ダムが流木等を捕捉した様子

③ ICTを活用した迅速な災害対応

林野庁では、こうした大規模な山地災害発生時に迅速な対応を進めるため、モバイルアプリケーションの「山地災害調査アプリ」の導入や、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）と連携した衛星データの活用を進めています。

中部森林管理局及び九州森林管理局では、JAXAが陸域観測技術衛星「だいち2号」で緊急観測したデータの提供を受け、土砂移動の可能性が高い区域を中心にヘリコプターによる上空からの調査を行うなど効率的な調査を実施しました。また、調査状況については、「山地災害調査アプリ」等を用いて、林野庁ー森林管理局ー森林管理署において、リアルタイムで共有するなど迅速な把握を行いました。また、これらの情報を地方公共団体に共有しました。



- ・長野県伊那市(いなし)浦(うら)国有林
- ・JAXAによる緊急観測データ赤枠内で土砂移動の可能性が確認された箇所

- ・熊本県葦北郡芦北町
- ・ヘリコプターから撮影した写真及び飛行ルート等のデータを直ちに共有することができる「山地災害調査アプリ」の画面